【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【公開番号】特開2011-8271(P2011-8271A)
【公開日】平成23年1月13日(2011.1.13)
【年通号数】公開・登録公報2011-002
【出願番号】特願2010-159213(P2010-159213)
【国際特許分類】
Ｇ０９Ｇ　3/34　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　3/20　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/167　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０９Ｇ　3/34　Ｃ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６１２Ｕ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６４１Ａ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２１Ｂ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２１Ｄ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６１１Ａ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６１１Ｅ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６７０Ｋ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２１Ｆ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６６０Ｕ
Ｇ０２Ｆ　1/167

【手続補正書】
【提出日】平成22年7月13日(2010.7.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６５】
【図１】図１Ａ～１Ｅは、本発明の非連続アドレス法にて使用できる五つの波形を示す図である。
【図２】図２は、単極電圧の多数のフレームを使用して電気光学ディスプレイをアドレスする際の問題を示す図である。
【図３】図３は、本発明の非連続アドレス法を使用して、図２の問題を解決する一方法を示す図である。
【図４】図４は、本発明の非連続アドレス法を使用して、図１３の問題を解決する二つ目の方法を示す図である。
【図５】図５は、本発明の非連続アドレス法に使用できる波形を示す図である。
【図６】図６は、図５の波形を生成するため、本発明に基づいて変更できる基本波形を示す図である。
【図７】図７は、ＤＣバランスを保ちつつ、単極電圧の多数のフレームを使用して電気光学ディスプレイをアドレスする際の問題を示す図である。
【図８】図８は、本発明の非連続アドレス法を使用して、図７の問題を解決する一方法を示す図である。
【図９】図９は、本発明の非連続アドレス法を使用して、図７の問題を解決する二つ目の方法を示す図である。

【図１０】図１０は、以下の実施例に記載のように、本発明の非連続アドレス法を使用せずに、わずか４グレーレベルの電気光学ディスプレイ上で取得されたグレーレベルを示す図である。
【図１１】図１１は、様々な非連続アドレス系列を使用して、図１０と同様のディスプレイより取得されたグレーレベルを示す図である。
【図１２】図１２は、本発明の非連続アドレス法に基づき変更された駆動方式を使用して、図１０と同様のディスプレイより取得されたグレーレベルを示す図である。
【図１３】図１３は、電気光学ディスプレイを駆動するのに使用できる単純なＤＣバランス波形を示す図である。
【図１４】図１４は、電圧ゼロのある期間を組み込むための図１３の波形への二つの変更を示す図である。
【図１５】図１５は、電圧ゼロのある期間を組み込むための図１３の波形への二つの変更を示す図である。
【図１６】図１６は、どのように図１３の波形を変形して一組の駆動パルスを印加できるかを図解的に示す図である。
【図１７】図１７は、図１６に図示の方法で、図１３の波形を変更することで形成される一つの波形を示す図である。
【図１８】図１８は、図１６に図示の方法で、図１３の波形を変更することで形成される二つ目の波形を示す図である。
【図１９】図１９は、どのように図１８の波形をさらに変形して三組目の駆動パルスを印加できるかを図解的に示す図である。
【図２０】図２０は、図１９に図示の方法で、図１８の波形を変更することで形成される一つの波形を示す図である。
【図２１】図２１は、本発明の方法で使用される完全なルックアップテーブルを提供するために、ＤＣバランス波形と併せて使用できる一つの好適なＤＣバランス不平衡波形を示す図である。
【図２２】図２２は、本発明の補正電圧法により実現できる滞留時間依存性の減少を示すグラフである。
【図２３】図２３は、電気光学ディスプレイにおいて滞留時間依存性の効果を示すグラフである。